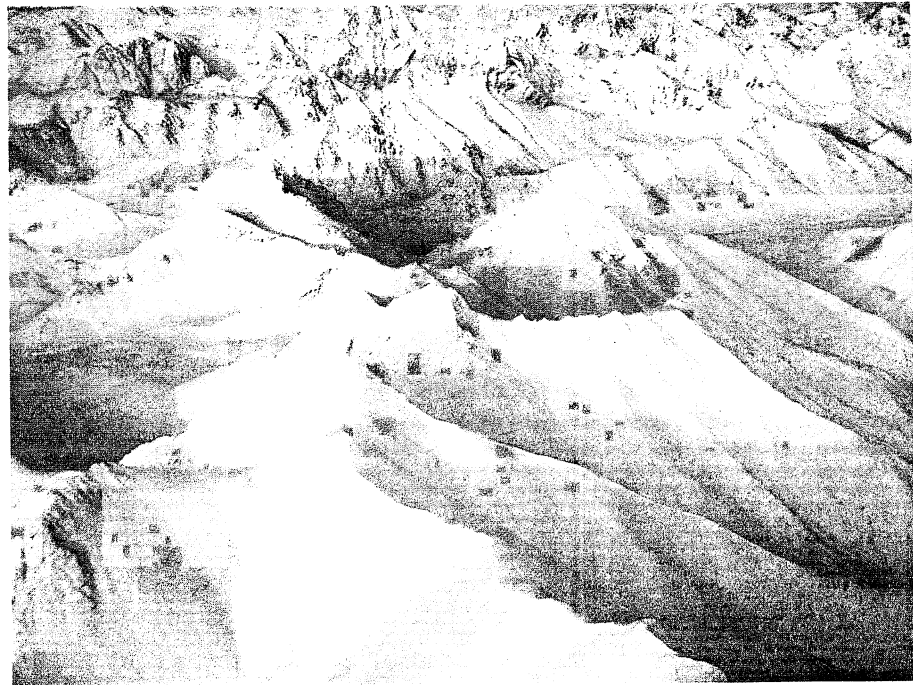


特集

死の現在



特集 死の現在

生をはさむ二つの死

——イスラム教徒の死生観——

八木久美子

やきくみこ

言ってやるがいい、「アッラーが、あなたがたに生を授け、それから死なせ、それから復活の日に、あなたがたを召集なされる。それに就いて疑いはない。だが、人々の多くは、これを理解しない。」

かれらは中し上げよう。「主よ、あなたはわたしたちを二度死なせ、二度甦らされました。今わたしたちは罪業を認めました。何とか脱出する道はないですか。」

この世に生を受けること、そしてこの世で生を終えることについて、人間はどのように理解すればよいのである

ろうか。人間として避けることのできないこの問題は、当然のことながらイスラム教徒にとつても、生き方の根幹に関わるような重要な意味を持つ。イスラム教徒であるということは、言い換えれば、この問題にイスラム教徒としてひとつの答を持って生きているということである。

たしかに同じイスラム教徒といつても、具体的問題になれば、時代や地域、そして状況によって態度や見解に違いが生まれる。とは言つても、それを否定する者はイスラム教徒とはもはや言えないというような、見解の相違を許さないイスラムの根幹と言える部分があることもまた真実である。そのひとつとして、イスラム教徒で

あれば誰しも、人間が創造主である神によって創られたものであることを認めない者はいない。冒頭に挙げたコーランの一節は、生死の問題についてのイスラムの基本的な理解である。本稿では、コーランおよび預言者ムハンマドの言行を記録したハディースといったイスラムの宗教テキストを中心に、イスラムでは人間の生死の問題がいかに捉えられているかを見ていくことにする。

一 天使に魂を吹き込まれる

人間が生を受ける過程について、コーランでは、次のように言われる。

創造された一切を、最も善美なものになされ、泥から人間の創造を始められる。彼は、いやしい水（精液）の精からその後継者を創られ、それからかれ（人間）を均整にし、かれの精霊を吹き込まれ、またあなたがたのために聴覚と視覚と心とを授けられた御方。¹⁾

えに、人間は尊ばれなければならない存在なのである。人間存在の意味を考える際に、常に議論の根拠は絶対者である神との関係に求められる。

イスラム教徒は人間の誕生の過程を神の業として理解する。こうした理解は、単に唯一の創造主である神への畏敬と感謝、それに基づく人間の責任というような観念的な議論につながるだけでなく、より具体的な規範や慣習を生み出す。

人間関係や職業上の問題まで、まったくイスラムが関与しない領域はないというのはよく指摘される事実である。いわゆる六信五行はイスラムの根幹ではあっても、全体ではない。たとえば、ハディースの中にどのようなテーマが出てくるかを見てみよう。コーラン解釈、礼拝、断食などいわゆる神学的な問題や儀礼に関する事項が登場するのは当然であるが、食物、衣服、治療、養育、賃金、借金、返済などの項目は、それ以上の数で並んでいる。突き詰めて言えば、イスラム教徒にとっては、人間が日々、経験する一つ一つの行いが神の目に照らしてどう映るかが問題となり、我々が通常、宗教、道徳、法と

人間は元来、泥からその身体を創られ、そこに精霊、魂を吹き込まれるという手順で創られた。²⁾ その孫たちの創造もまた、神の手によるものであり、まず身体が創られ、そこに魂が吹き込まれる。こうして人間は無であつた状態から、命あるものとしてこの世に存在せしめられる。冒頭に挙げた一節には二度の死が言及されているが、それはこの神の業による誕生以前の状態をひとつの死とみなしているからである。人間は、神によってこの世に生を受け、神の意志によって生かされている。一人一人の人間がそれぞれに、生きているという状態そのものに神の意志を感じとる。

人間の尊厳というものを、たしかにイスラムも認める。しかしながらそれは、人間が人間であるというだけで本来的に持っているものとはされない。イスラムが認めるのは、人間が神によって創られ、とくに魂を与えられたことによって獲得する一種の特別な地位である。イスラムは、神の超越性を強調する宗教であり、神は唯一の創造主、いかなる被造物とも隔絶した絶対者であると考えられる。その絶対者によって魂を与えられたものであるがゆ

いう別々の次元で議論する問題が原則的にはすべて、宗教から切り離されることなく語られる。イスラムは狭い意味での宗教的な事象、あるいは精神的、内面的な問題だけに関わるのではなく、人間が生きていくなかで経験するすべての次元に関与するというのはそういうことである。それは、この世に生を受けようとする胎児や、この世を去ろうとする病人やけが人の扱いについても変わりはしない。

人間が生を受ける過程について言えば、今日のイスラム教徒にとっておそらくもっとも切実な形で判断を求められるのは、人工妊娠中絶の是非であろう。それはイスラム教徒として許される行為なのか。もし許されるとすれば、その根拠は何か。そしてどの時点まで許されるのか。実際に生活する国の法律の問題とは別に、彼らはイスラム教徒としての判断を迫られる。

先にコーランの一節を引いたが、人間がこの世に生を受ける過程について、ハディースの中にはさらに詳細な記述が見られる。